

iPhone用Onshapeの使い方 (ブロックも作ります)



- 画面は小さいですがタブレットと同等のモデリングができます
- 作図作業はすべて画面を指先でタップまたはドラッグすることで行います

旭川高専 kashikashi

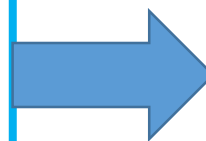
2021.6.9

iPhone用Onshapeの特徴

① iPhone用の無料版Onshapeでは

- 図面作成ができない
 - アニメーションができない
- ようです

② WEBブラウザからの使用ではなく、App StoreからOnshapeをダウンロードして使います



- ダウンロードしたOnshapeはアプリケーションではなく、WEBブラウザの代わりのもので、Onshape本体がダウンロード・インストールされたわけではありません
- Onshapeと作製したドキュメントはクラウド上にあります

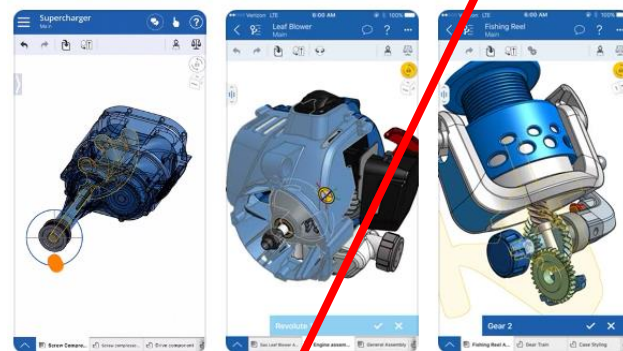
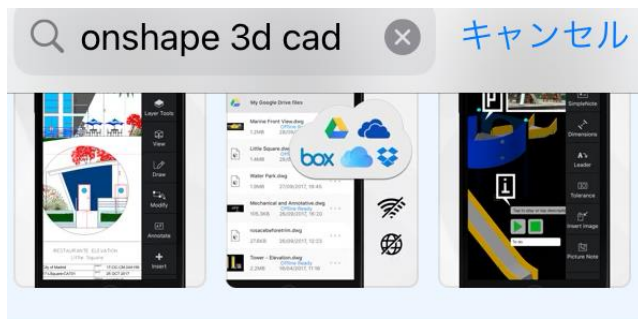
iPhone用Onshapeを使えるようにしましょう

App Storeを
タップします

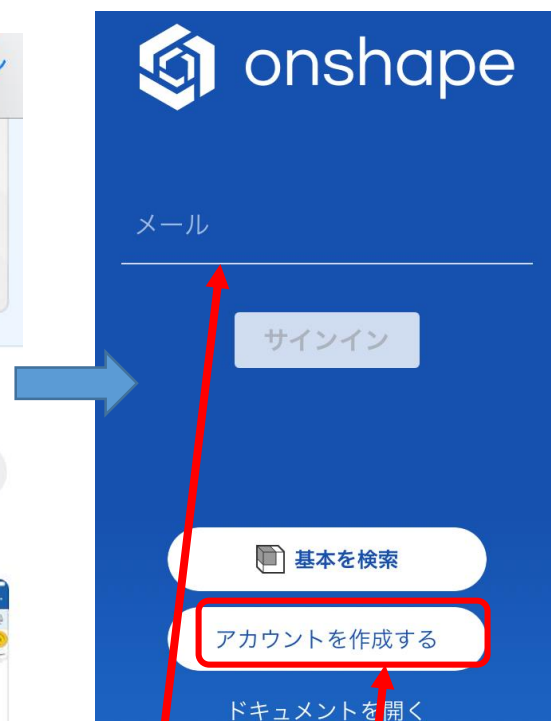
[Onshape] で
検索します

[Onshape 3D
CAD]が現れる
のでインストール
します

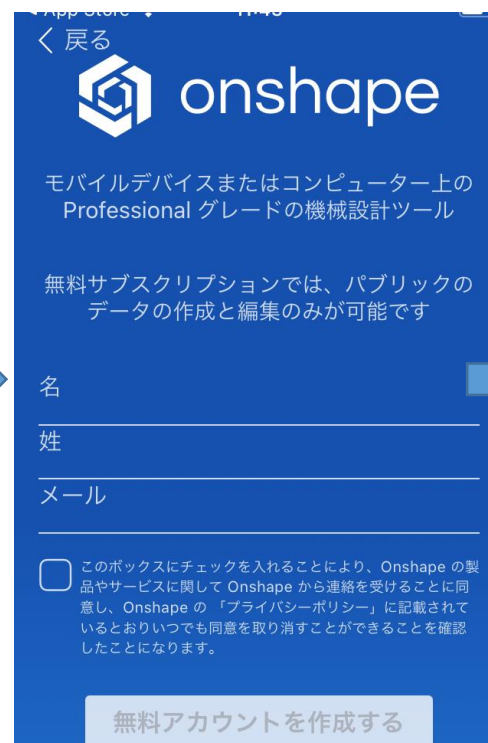
iPhone用Onshapeを使えるようにしましょう



「開く」をタップ



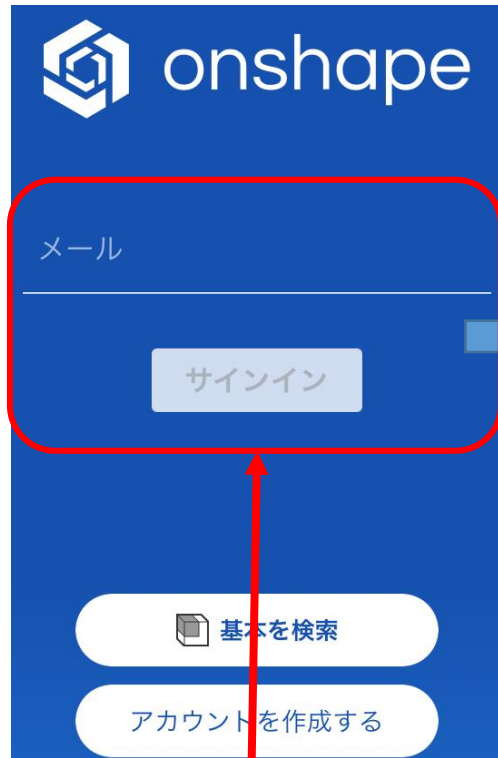
- アカウントのない方は「アカウントを作成する」をタップする
- アカウントのある方はメールアドレスを入力しサインインします



- 続いて現れるウィンドウで「単位」設定をする
- 長さはMillimeter、角度はDegree、重さ(マス)はKilogramに設定してください

- 「アカウントを作成する」をタップすると上の画面になるので必要事項を入力し、無料アカウントを作成します

iPhone用Onshapeを使えるようにしましょう



- アカウントのある方はメールアドレスを入力してサインインします



- 上の画面になるので学校のEducation Enterprise版とリンクしたサインインは学校の名前を書いている方をタップする
- リンクせず個人で使用するときは「個人アカウント」をタップする



- Education Enterprise版とリンクしたサインインをしました
- パスワードを入力してサインインします



- [Onshapeを使い始める]をタップして始めましょう

iPhone用Onshapeでモデルを作りたい

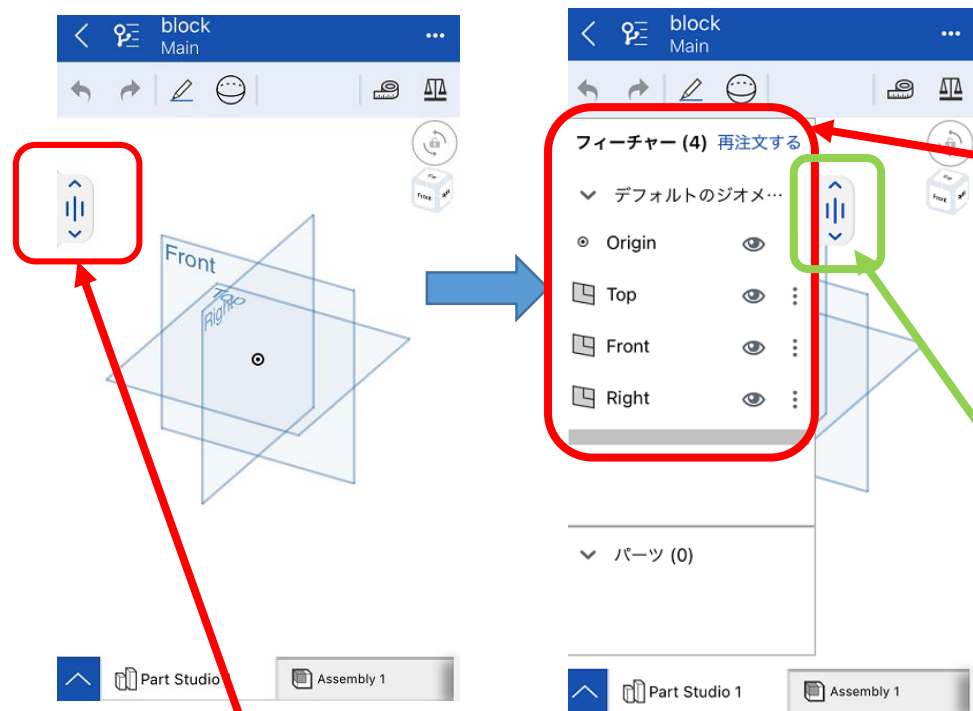


- 左の画面に「+」をタップして新規ドキュメントを作成します
- ドキュメントは作成する3Dモデルを含むファイルのことです
- ドキュメントはクラウド上に保存されます
- 左の画面に「+」をタップして新規ドキュメントを作成します



- ドキュメント名を入力して[OK]をタップします
- 例えば[block]というドキュメント名にします

iPhone用Onshapeでモデルを作ります



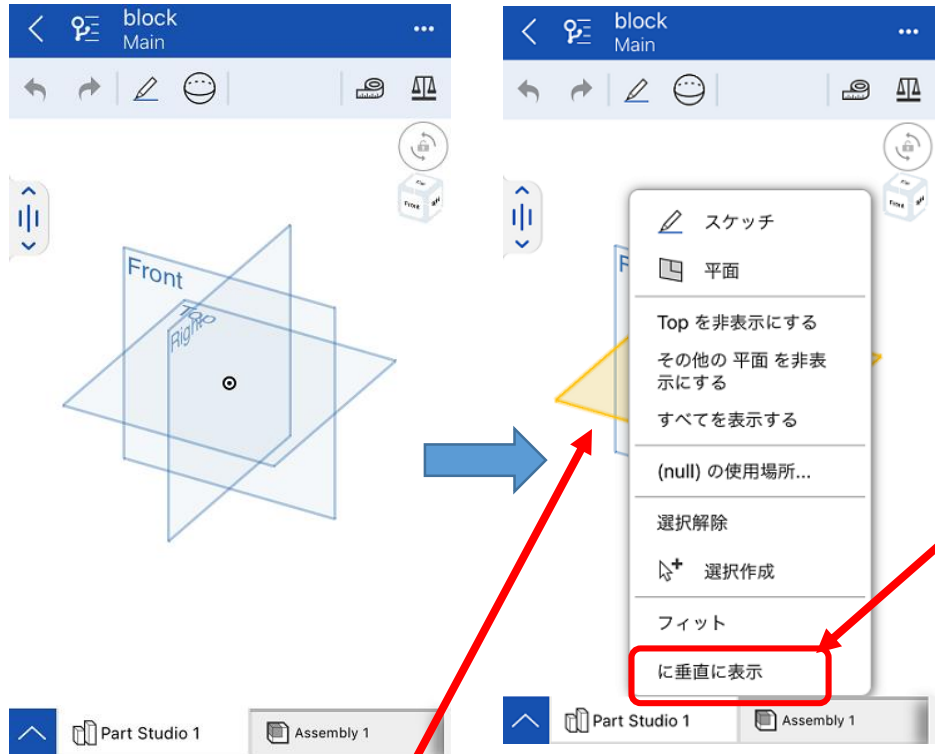
- 作成したスケッチ、フィーチャーが表示される
- 画面が小さいので一部のみ表示されるが指でスクロールすると現れます

- 再度、ここをタップするとリストが引込む

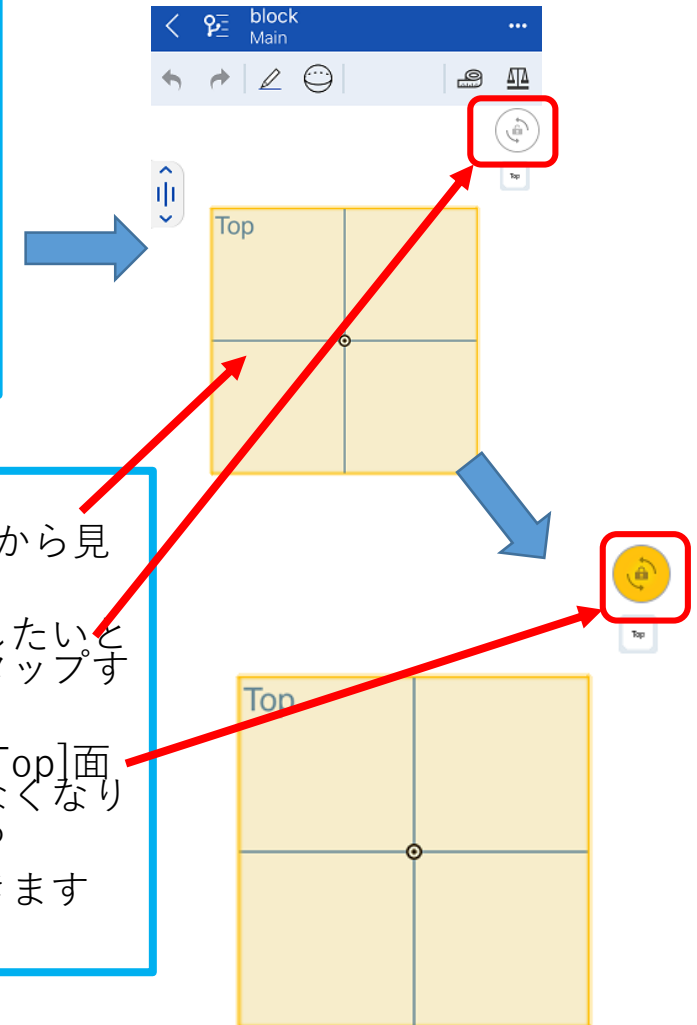
- Androidスマホとほぼ同じワークスペースが現れます
- ここをタップするとフィーチャーリストが現れる

- iPhoneでのモデリングはすべて画面を指先でタップすることにより行います
- そのため操作方法がマウスを使うwindows PCとは少し異なります

iPhone用Onshapeでブロックを作ろう



- [Top]面を正面から見たいため、ワークスペースの空いているところを「人差し指と中指で同時に軽くタップ」します
- すると図のウィンドウが現れるので「に垂直に表示」をタップします



- [Top] (平面図) で作業するときは、[Top]面をタップする
- 選択された面はオレンジ色になる
- 選択解除したければワークスペースの空いているところでダブルタップすると選択解除されオレンジ色が消える

- [Top]面を真正面から見れる
- この状態を固定したいときは、この円をタップする
- 円が黄色になり[Top]面は回転せず傾かなくなり作業しやすくなる
- 拡大・縮小はできます

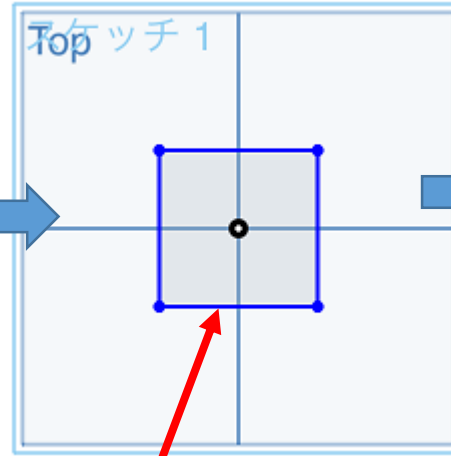
iPhone用Onshapeでモデルを作ります



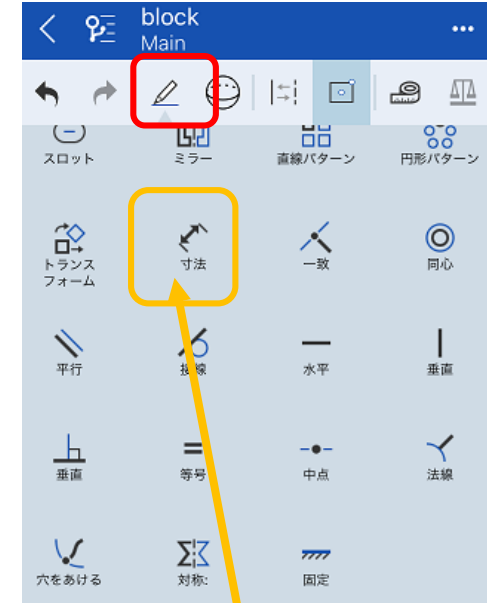
- 鉛筆アイコンをタップする
- 下のスケッチツールリストが現れる
- 画面が小さいため一部しか表示されないが、スクロールすれば下からほかのスケッチツール現れる

• 中心長方形をタップします

- Windows PCではスケッチツールバーが現れますが、iPhoneではリストです

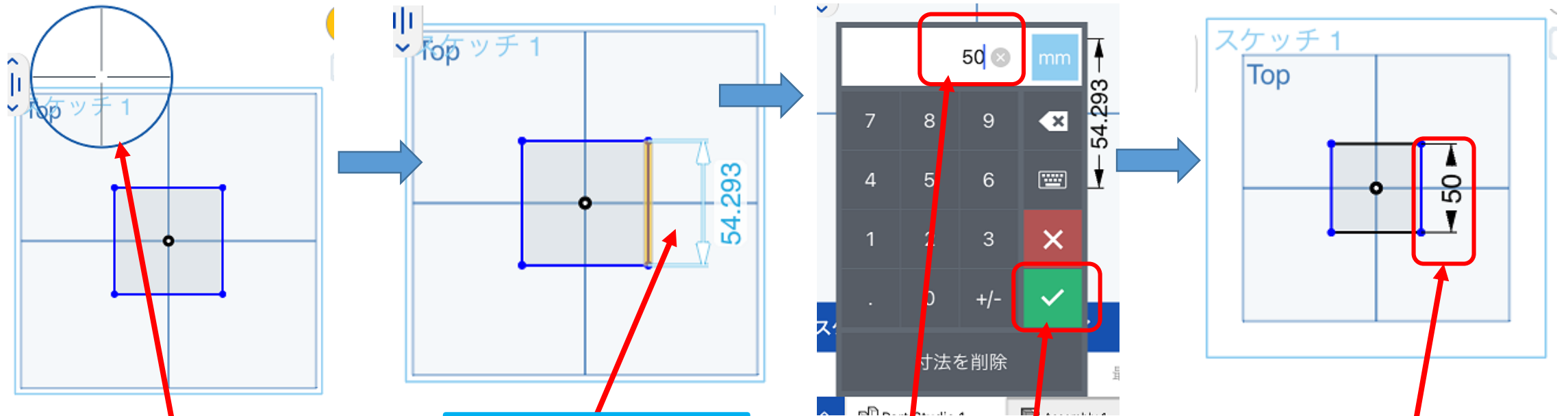


- 画面をタッチすると長方形の中心点[+]が現れるので、原点まで指を滑らせ中心点を原点に移動します
- 指を画面から離し、もう一度指を画面から離して適当な大きさの長方形にしてから指を離します



- 鉛筆アイコンをタップする
- スケッチツールリストが現れる
- 画面が小さいため一部しか表示されないのスクロールすると下からほかのスケッチツール現れる
- 寸法をタップする

iPhone用Onshapeでモデルを作りたい



- 画面を長押しすると寸法を設定するための円形ポインタが現れる

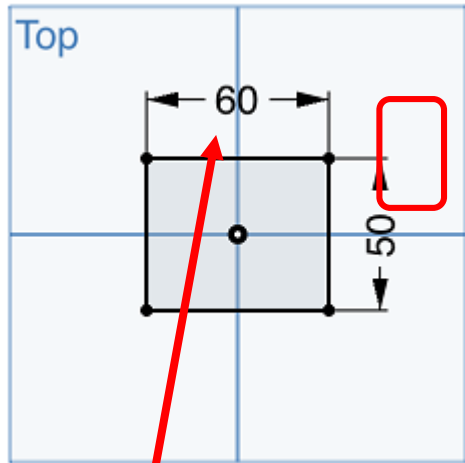
- 円形ポインタをい動かすと、寸法変更した際の寸法が現れる

- 現れた寸法を1回タップすると寸法入力用キーボードが現れる
- 50と入力して緑のチェックをタップする

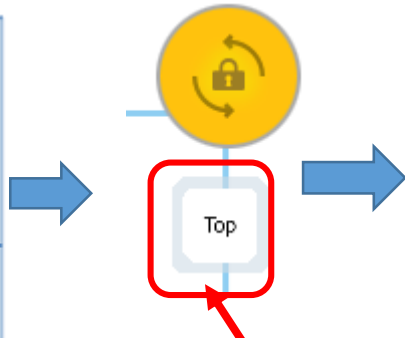
- 寸法が50mmになる

iPhone用Onshapeでモデルを作りました

ゲツナ 1



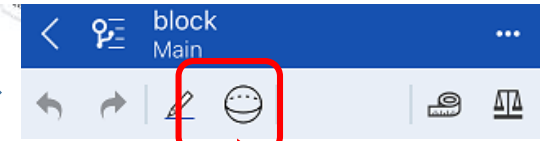
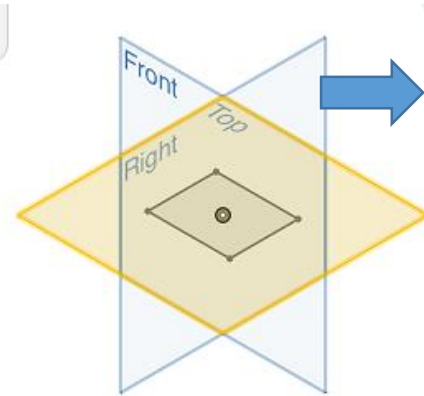
- 同様にして上の辺の寸法を60mmにする



- ワークスペースの右側のコントロール（サイコロアイコン）をタップする



- リストが現れるので「アイソメトリック（等角投影）」をタップする



- ワークスペース上のチャーターをタップする

- フィチャーツールのリストが現れるので「押し出し」をタップする



iPhone用Onshapeでモデルを作りました

押し出し 1
押し出す面またはスケッチ領域を選択します。

- 「押し出す面またはスケッチ領域を選択します」と表示されている
- これは押し出す領域を選択していないためです
- 作図した長方形領域をタップして選択する

押し出し 1
末端の種類
ブラインド

- 長方形領域が少し押し出される
- 押し出し初期値が25mmに設定されているため25mm押し出されるのです

押し出し 1
奥行き 25 mm

- 押し出しフィールドをタップすると「奥行き」が表示されるのでタップする

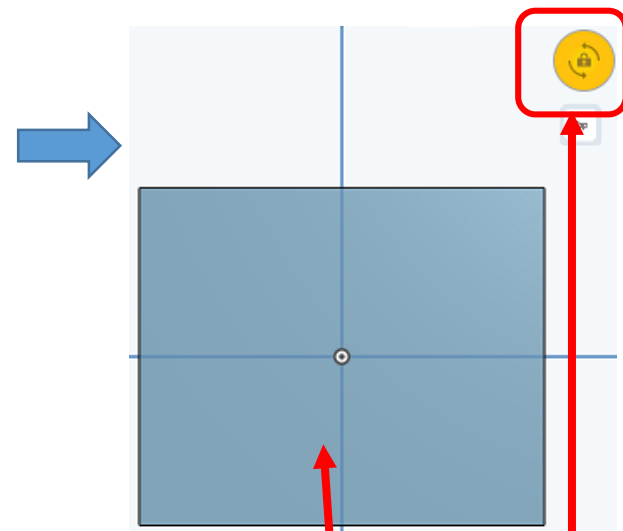
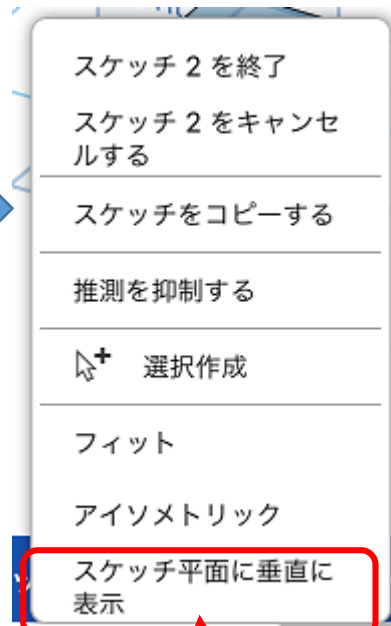
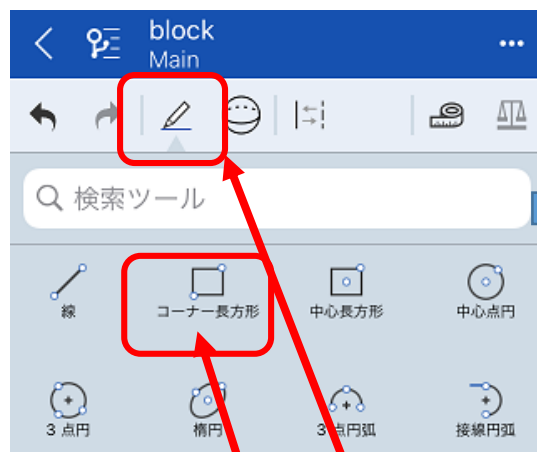
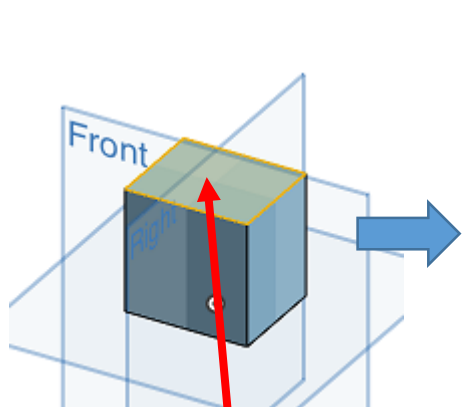
押し出し 1
60 mm

- 60mm押し出されるのでチェックをタップする
- 確定する

押し出し 1

- キーボードが現れるので60と入力し緑チェックをタップする

iPhone用Onshapeでモデルを作りました



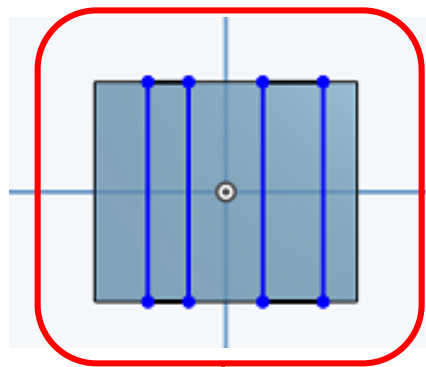
- 押し出したブロックの上面をタップする
- 上面がオレンジ色になり選択される
- この面が新たになりスラスラとスケッチツールで形状を指定できる

- スケッチツールをタップする
- 下にスケッチツールが現れるので「コーナー長方形」をタップする

- ワークスペース上を2本の指で同時に軽くタップする（中指と人指）と右側のメニューが現れるので「スケッチ平面に垂直に表示」をタップする

- スケッチ面が垂直に見える
- この垂直状態を固定するため右上の円をタップと固定される

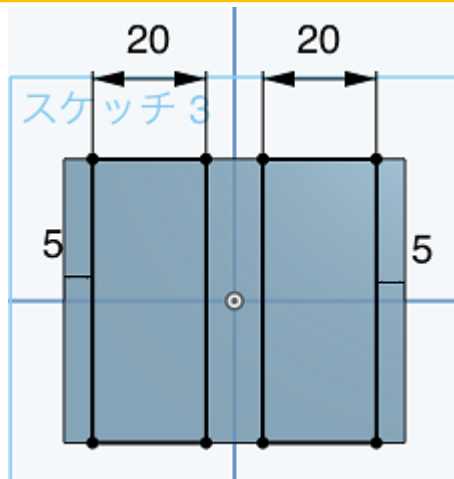
iPhone用Onshapeでモデルを作りました



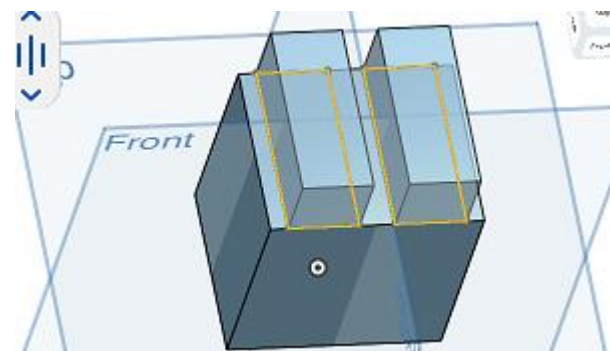
- ワークスペースを長めにタッチすると「+」ポインタが現れるので上の辺にドラッグして指を離し、再びタッチして下の辺にドラッグすると長方形ができる
- 同様に2つめの長方形を上側の辺から下の辺まで作る



- スケッチツールをタップする
- 下にスケッチツールが現れるので「寸法」をタップする



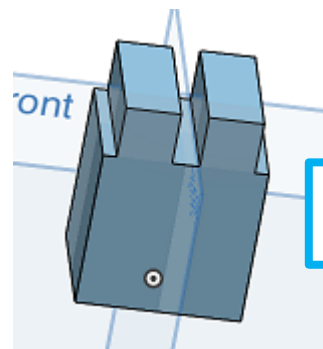
- 上図のように寸法をいれる



反対方向

奥行き

- 奥行き20mmで押し出す
- チェックをタップして確定する



- ブロック完成です